



◆位山舟山県立自然公園

位山から舟山(船山)、川上岳にかけての山城は、源流部の山々に息づく大自然とすぐれた景観が展望できる景勝地です。一之宮町から久々野町、下呂市萩原町にまたがるこの一帯2,655.2ha(うち一之宮町1,062ha)が、『位山舟山県立自然公園』に指定されました。そのうち位山山頂周辺とそこから北東にのびる尾根、また位山北麓と苅安峠周辺の221.3haは、特別地域として特に保護することとされています。

◆位山分水嶺公園

苅安峠にほど近い『位山分水嶺公園』は、長い水の旅の出発点である分水嶺の自然に親しんでいただくための場所です。分水嶺水路、湿原観察歩道、あずまやが設置されています。湧き水の一方は富川・神通川を経て日本海へ、一方は飛騨川・木曾川を経て太平洋へ…。アカマツの美林を散策しながら、あるいはパンチに腰をかけて、壮大な水の旅に思いを寄せてみませんか。

◆苅安湿原

『苅安湿原』は、乗鞍岳から宮峠、位山へとびる分水嶺上に位置する位山分水嶺公園の中にあります。標高約900m、面積約0.55haで、東向きゆるやかな斜面にあります。全体は泥炭層に覆われ、その上にミズゴケ湿原(高層湿原)が広がっています。

水路やアカマツ林、建物などに囲まれたとても小さな湿原ですが、調査の結果、絶滅のおそれがあるとして環境庁のレッドリストにあげられている種類など、貴重な植物が数多く生育していることがわかってきました。また日本で最も小さなトンボハッチョウトンボなど、貴重な動物もすんでいます。

一之宮町では、多様な湿生植物が自生する苅安湿原を町の財産として大切に保護するため、2000年に『苅安湿原植物群自生地』として天然記念物に指定しました。また、守るためには多くの方に湿原の自然のすばらしさ、不思議さ、そして弱さなどを知っていただくことも大切だと考え、観察歩道(休遊)をつくりました。四季それぞれの、湿原の生きものが暮らすようすを、そっとのぞいてみてください。

お願い

～自然や山野草が好きな方へ～

◆湿原の中に入らないで!

◆湿原の植物をとらないで!

1. 絶滅のおそれのある小さないのちを、あなたの一歩がふみつぶしてしまいます。

2. 苅安湿原という特殊な環境に生える植物は、他の場所ではちゃんと育ちません。

※注意 高山市教育委員会の許可なく湿原内に立ち入りたり植物を採取することは、違法行為です。

◆モンデウス飛騨位山スノーパークと苅安牧場

位山のふもとにある広々としたスキーゲレンデからは、北アルプスの大パノラマ15基のリフトと5つのコースで、スキー初心者から上級者までたっぷり楽しめます。ソリ広場や無料休憩スペースなど、ファミリーにうれしい施設も充実。
白いゲレンデは、春には緑に衣がえ、広い放牧場で草をたべる乳牛たちを見ていると心がなごみます。

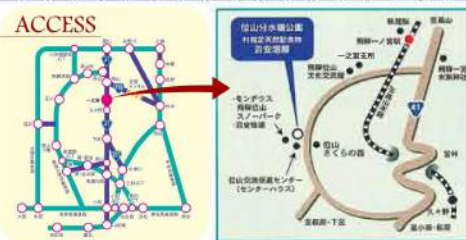
センターハウス『位山交流促進センター』は、各種研修や交流イベント会場として利用することができ、周辺の観光情報も得られます。なかにはゲレンデが一望できる展望レストラン『さくらりあ』や喫茶コーナー、特産品販売コーナーがあります。

◆位山登山

スキーゲレンデ(放牧場)のわきを通る登山道を歩くと、約3時間で位山山頂(1529m)へ。うっそうとした森と蒼むした巨石が、心をいやしてくれます。スキー場からダナ平林道を通り(車で30分)、終点から登るルートもあります(山頂まで約1時間)。

◆臥龍桜自然公園 位山さくらの森

かつて『苅安のマツ』として知られたアカマツの美林と、雑木林。植栽花木が見所です。遊歩道(車いす対応)をたどれば、どなたでも森の恵みにふれることができます。



お問い合わせ 一之宮観光協会
〒509-3526 岐阜県高山市一之宮町7846-1 TEL 0577-53-2421 FAX 0577-53-2248
監修/高山短期大学附属自然博物館学芸員 小野木三郎
このパンフレットは再発行を歓迎いたします

位山

ぶんすいれいとうえん

位山分水嶺公園

かりやすしつげん

天然記念物 苅安湿原

ガイドマップ

高山市一之宮町

春

夏

神名の伝統が息づく
位山の森ととろろ。
深く眠りからめざめ
水音、はじまる。

秋

冬

位山分水嶺公園 苅安湿原 ガイドマップ

ミニ知識「湿原ってなあに？」
低湿、多湿の環境では、枯れた植物の遗体は腐敗・分解しにくいため、黒色の泥炭(でいたん)として、徐々にたい積します。その泥炭地上に広がる草原が『湿原』です。

ミニ知識「ミズゴケ湿原(高層湿原)ってなあに？」
泥炭地上は多湿のうえ栄養に乏しく、ミズゴケ類など厳しい環境に耐えられる植物しか生えることができません。ミズゴケ類主体の『ミズゴケ湿原』となります。地下水位より高い位置でできるこのタイプの湿原は、『高層湿原』とも呼ばれます。

クサレダマ(花期: 7～8月)

ノリウツギ(花期: 7～8月)

カキラン(花期: 7～8月)

ムラサキミカゲカサ(花期: 8～9月)

シラヒゲソウ(花期: 8～9月)

ヒダキセルアザミ(花期: 9～10月)

エソリンドウ(花期: 9～10月)

自然観察 “はじめの一歩”

「自然の中にとくとく楽しい」「心が安らぐ」という自然好きの方に、もっと自然が好きになる『自然観察』をオススメします。

自然観察は、生きものの名前をおぼえたり、むずかしい話を聞くことではありません。足元の小さな雑草や虫に目を向けること、どこから聞こえる小鳥の声を耳をすますこと、木の肌にふれその感触を確かめること、花の香りや木の味を楽しむこと、これらはすべて自然観察の『はじめの一歩』です。自分の持つ感覚を総動員して自然とつきあうと、まわりの自然に親近感が湧き、いっそう生き生きと感じられるでしょう。

自然観察のポイントをいくつか紹介します。

- ①生きものまわりの環境のつながりをみてみよう。
木と森、魚と川、お互い深く関係している生きものまわりの環境が、どこでどのようにつながっているか注目してみよう。
- ②スケッチしてみよう。
落書きのつもりでスケッチを。描くうちに、なんとなく見ていたものも、委かたち、自然全体の中での位置・役割が発見できるはず。
- ③「どうして?」という気持ちを大切にしよう。
「どうしてここに生えているの?」「なぜこんなカタチなの?」疑問について考え解いてゆきなで、自然のことをより深く知ることができよう。
- ④今だけでなく、過去・未来も考えよう。
「この木が芽生えた頃、どんな環境だったろう?」「この花、来年もまた咲くかなあ?」1秒、1日、1年、移りゆく自然の姿に注目してみよう。
- ⑤人と自然のつながりに目を向けよう。
原生林とくらべて人手の入った雑木林は価値が低いかな?人が自然に手を加えることの意義、目的、影響などを考えてみよう。
- ⑥誰かと話し合ってみよう。
自分が感動したり、「?」と思ったことについて誰かと話し合ってみよう。自然の見方・考え方を広げるチャンスです。



サラサドウダン群生の山頂一帯



西に白山を望んで楽しい昼食



川上岳縦走路から位山山頂 飛騨山脈を望む



花の色にも注目！白色から紅色まで！！



豊稔けと共に山頂を渡るバイカウレン ツルシキミの実 チゴユリ 山頂に近づくくと針葉樹の世界
アカモノ イワナシ エソユズリハ コアジサイ



ツクバネソウ ツクバネソウの実 ギンリョウソウ
ツルリンドウ ツルリンドウの実 ウツギ(ウノハナ)



オオカメノキ タニウツギ



スキー場から望む御岳山



天の岩戸



黄葉が鮮やかなコシアブラ コシアブラの実よく見て三小葉のがタカノワ



サラサドウダンの見事な紅葉 最も鮮やかに色づくハチワカエデ



季節を違えて何度か訪れると、冬枯れが吹き新緑のころと、



夏緑林の名花ムラサキヤサキツツジ ヤマトツツジ



穂状に咲くウツミズゲラ ホオノキの花



ミヤマガマズミの実 ヤドリギの実

位山は樹木の見本園

木肌の特徴に注目！
いっつどんな花が咲くのかな？



ブナ ミズナラ シラビツ ネズコ (クロベ) ヒノキ サワラ ヒメコマツ(葉は五葉)



ブナの実と実 左:オオシラビツ,右:シラビツ 左から右へ,アスナロ,ネズコ,ヒノキ,サワラ (クロベ) イチイの実

位山 自然学習登山マップ
山ごそ伊勢、自然が教科書、四季折々盛りましょう！

この山の自然は、虫のみとるのほ写真のみ



スキー場から見える一之宮町の田園風景